

劇でつたえる 保育シリーズ 年少 10月

# 「秋をみつけて」

## 第一話 「色いろな、秋」

## 第二話 「一緒に遊びたいのに」

(上演時間 約20分)

作・清田明世

### ●登場人物

- まさる (年少) ちよつと引つ込み思案な男の子。  
ゆうき (年少) まつすぐな性格の男の子。  
げんたろう (年少) 面白いことが好きな男の子。何でもリズムや歌にする。  
ちほ (年少) ちよつとおませな、先進的な女の子。  
さとみ (年少) 後ずさり気味だが、優しい女の子。  
ナレーター 先生役

### ●今月のテーマについて

少しずつ過ぎしやすいく気候になってきました。秋は心身共に感覚が刺激される季節ですね。目に見える変化に、子どもたちの興味、関心は広がります。目につくものを探求する子どもたち。その姿に人間の本能を感じさせられます。

#### 自然は、全てを与えてくれる。

たくさんの恵み、好奇心の材料、知識の源、仲直りのきっかけ。赤、黄、緑、茶色、色とりどり。大きい、小さい、細長い、丸い、形の面白さ。秋と戯れながらの、子どもたちの日常を描いてみました。ままごとの材料を探しに行き、いろいろな秋を見つける女の子たち。仲良しメンバーで遊びたくて他を寄せ付けようとしないう男の子たち。それでもやっぱり、子どもらしいユーモアが距離を近づける。無邪気に笑える子どもたちに、敬意を込めて。

### ●秋らしい演出で子どもたちの創作意欲をかきたてましょう

第一話では、いろいろな色や形の、葉っぱ、どんぐりなどを使います。実物がない場合は、絵でも良いです。転がってくる、落ちてくるなどの演出があると、より臨場感ができます。

第二話では、拾ってきた葉っぱやどんぐりを使ってお面(厚紙に貼り)などを作る活動になげられたらと思います。眼鏡の形(ゴムですっぽと被れる)もおすすです。それを使って本作品では忍者になります。ハロウィンの仮装としても面白いかも。季節と手作り感を感じられるのではないのでしょうか。

さとみ

あ、茶色のどんぐりだ！

ちほ

こっちは緑色で、こっちは茶色だね。

ちほ

茶色のどんぐり…。

さとみ

落ちてきた…。

ちほ

どんぐりって、茶色になると木から落ちるのかなあ。

さとみ

どんぐり、枯れちゃって落ちてくるのかなあ。

ちほ

じゃあ、緑のどんぐりはどうやって落ちてきたの？

さとみ

ねえ、ちほちゃん、緑のどんぐりには、葉っぱがついてるよ。

ちほ

ほんとだ。  
葉っぱを羽にして、飛んできたのかなあ。

ちほ

うわっ！ 緑のどんぐり！

さとみ

飛んできた！

茶色のどんぐりを、高いところからポトンと落ちるよつに、舞台上に転がす。

どんぐりが落ちる音に振り返るちほとさとみ。

また高いところから茶色どんぐりが落ちてくる。

ちほとさとみ、高いところ(真上など)を見上げる。

葉っぱ付きのどんぐりが高いところから落ちてくる